

さんかく21・Anjo



男女共同参画週間イベント さんかく楽集会「私らしく、あなたらしく、自分らしく」

多様な生き方

さんかく21・安城 会長 石原 春代

少子高齢化の時代を迎え、このままいけば労働人口はどんどん減少していき、日本の経済は衰退していくと予測されています。

わが国では、出産、育児のため離職する女性が多くいます。しかし、家庭・企業や社会の支援があれば仕事を継続していくことが可能ではないでしょうか。

昨年の4月1日に「女性活躍推進法」が施行されました。「さんかく21・安城」はワーク・ライフ・バランスの見直しや、女性の意思に基づいた多様な生き方ができるように発信し、活動していきたいと思います。

目次

- *男女共同参画週間イベント
「さんかく楽集会」を開催しました!P2
- *市制65周年男女共同参画月間イベント
「女性活躍推進フォーラム」P2
- *輝く女性にインタビューしましたP3
- *なんちゃってイクメンP3
- *子どもへの男女共同参画のススメP4

テーマ「私らしく、あなたらしく、自分らしく!!」

平成29年6月24日 安城市民交流センター



さんかく楽集会は、国の男女共同参画週間(6月23日～29日)を広く周知し、市民の皆さまに男女共同参画に関する理解を深めていただくためのイベントです。

前半は愛知県立大学名誉教授の^{ひおきまさこ}日置雅子氏を講師にお迎えし、「家庭・地域・職場で女性が活躍できる社会」についてご講演いただきました。

後半は、各テーブルごとにグループトークを行いました。

講演の内容

- 「女性の輝く社会」のフレーズに、これ以上どう輝けと言うのかと不快感を抱く女性たちもいる。
- 働く女性は、「働き、生み、育て、かつ介護」の4重苦を強制させられ怒っている。
- 女性活躍推進法では、管理職への女性の登用率が採用率のどちらかを選ぶかは企業任せで、数値目標も罰則規定も無い。
- 男女の不平等感が強いのは、「政治」や「経済」よりも「社会通念」である。
- 愛知県は全国平均よりも「男は仕事、女は家庭」という意識が高い。
- 「女性が活躍できる社会」とは女性も男性も「多様な生き方」が選べ、自分なりの能力を活かし、それが評価される社会。

グループトークでの意見

- 自分の時間を持ち、社会に目を向けていくことが大切である。
- 女性活躍推進法が施行されたが、実社会では実感がない。働き方、固定観念の見直しが必要。
- 男性も主夫を選べる社会になるといい。

参加者の声

- 改めて、自分らしく生きようと思った。
- 自由に語り合える雰囲気楽しかった。
- 人とはなしをしたり、講座を受けたりすることで視野が広がった。
- いろいろな生き方を知った。様々な年齢の方と交流し、いろいろな価値感を聞けてよかった。
- 自分らしく生きれば、自分が輝いていくことにつながるのだと思った。

市制65周年男女共同参画月間イベント

「女性活躍推進フォーラム」

職場だけでなく、家庭・地域などであなたらしい女性活躍の仕方について一緒に考えませんか。

- 日 時 平成29年10月22日(日)午後1時30分～3時30分
- 場 所 アンフォーレホール
- 内 容 平野裕加里氏による講演およびパネルディスカッション
- 申し込み 9月1日(金)から9月29日(金)までに安城市HPまたは右のQRコードから申し込みできます。



是非、ご応募
ください!



(元CBCアナウンサー) ひらの ゆかり 平野 裕加里 氏

輝く女性にインタビューしました ★あなたも輝く方法見つけてみませんか★

商工会議所女性会の会員であり「さんかく21・安城」で活動された、稲垣三枝子さん、金田和代さん、白谷隆子さん、筒木麻三子さんの4名に仕事と家庭との両立について話を伺い、輝くための秘訣を教えてくださいました。

《家族との付き合い方》

- ★夫婦でお互いに時間を設ける事で、自分の時間を取り戻し新たな気持ちで仕事を続けることが出来る。
- ★義理の両親が子どもを見てくれた。
- ★保育園等に早くから入園することで、子ども同士のふれあいができ自立が早くできた。
- ★家族の協力と理解のもと子育て出来た。
- ★家族の協力に感謝している。
- ★理解と協力、そしてお互いを尊重し合う。



左奥から筒木麻三子さん、稲垣三枝子さん、白谷隆子さん、金田和代さん

《地域との付き合い方》

- ★ご近所の方に子育ての相談したり協力しあう。
- ★地域の方々とお互いに子どもたちを見たり、声を掛けたりする事が多かった。
- ★地域(町内会・振興組合等)の行事には積極的に子どもも一緒に参加する。

取材を終えて

夫婦がお互いに理解・尊重し子育てや家事を協力し合うことや、家族だけでなく地域の方も一緒になって子どもを見守ることが、女性が一層輝ける社会になるための秘訣ではないでしょうか。

なんちゃってイクメン

最近は男性の家事育児へ関わりが増え、「イクメン」という言葉も広く知られるようになりました。

その実態はどうなのでしょう？

先日気になるチェックシートをみつけました。チェックがあると、本人はイクメンと思っていても、実際は妻任せで「なんちゃってイクメン」のようです。子育て中の男性は、大丈夫ですか？



- ☐ オムツ替えはするけど、ウンチ(特に下痢)の時はNG
- ☐ 子どもの病状に応じた、かかりつけの病院を知らない
- ☐ 子どもを叱るのは妻の担当だ
- ☐ 自分の趣味に子どもを付き合わせるが、子どものやりたいことには付き合わない
- ☐ 子育てグッズの機能性や価格よりも、見栄えにこだわりたい
- ☐ 育児に費やす時間を他のパパと比べて自慢するが、妻と比べることはない

(東レ経営研究所 渥美由喜さんより)

子どもへの男女共同参画のススメ

子どもにお手伝いさせていますか？

子どもが将来自分らしく生きられるようになるために、家庭ではどのように接するのがよいでしょうか。

「さんかく21・安城」のメンバーで、さまざまな困難を抱える若者の自立・社会参加をサポートしているNPO法人育て上げネット中部虹の会の加藤早苗^{かとうさなえ}さんに、日々の活動をふまえた上でのアドバイスを伺いました。

加藤さんが家庭に対してアドバイスしているのは、「まずは家の中で出来るお手伝いを、お子さんにさせてください。」ということです。お手伝いすることで家族の一員として助け合うという利他心や、一人で生きていくための自活力・段取り力が育まれます。

また、「○○をしてくれてありがとう」「助かったよ」「また頼むね」という言葉をかけることで、子どもの中に自信が生まれます。その言葉が「やってよかった」「また頑張ろう」というエネルギーに変わり、またお手伝いをしてくれるようになるという好循環につながっていきます。

自信をつけさせることが、自立を促すことにつながっていくのです。



NPO法人育て上げネット
中部虹の会 加藤さん



家庭でのお手伝い



「ありがとう」
「助かったわ」
「また頼むね」



「やってよかった」
「喜んでくれて嬉しい」
「また頑張ろう」



お手伝いの効果

利他心や自活力の醸成
自信と自己肯定感が高まる
自分自身を好きになる
自分を信じられるようになる
自分のやりたいことにチャレンジできる

個人の生き方は多様化してきましたが、「男だから、女だから」といった性別に基づく固定的な意識や考え方は、社会の中に未だに根強く残っています。しかし、自信がついた子どもは、そうした固定概念にも負けず、自らの手で、自分のやりたいことにチャレンジするようになるのではないのでしょうか。

ぜひ、子どもの頃から、家庭という小さな社会の中で、まずはお手伝いを通して自信や自己肯定感を育むような働きかけをしていってほしいと思います。

使って
みよう!

あいいうえお褒め言葉
魔法の言葉

(あ) ありがとう (い) いいね!
(う) うれしい (え) えらい
(お) おかげ! おみごと!

●「さんかく21・安城」とは●

男女共同参画社会の実現をめざす市民グループの
ネットワークの会です。

(平成29年9月1日現在グループ一覧・順不同)

安城市更生保護女性会／安城国際交流友の会
安城市健康づくり食生活改善協議会
安城市消費生活学校／安城商工会議所女性会
グリーンそう／特定非営利活動法人ing
国際交流安城はなのき会／NPO法人安城まちの学校
愛知県農村生活アドバイザー(安城地区)／安希の会
ボランティアネット北明治の会／やはぎ会安城支部
刈谷・知立・安城おやこ劇場
NPO法人育て上げネット中部虹の会／NPO法人えんご会
NPO法人チャンネルDaichi
社会福祉法人ぬくもり福祉会ぬくもりの家／安城ジャズクラブ
個人会員 22名

編 集
後 記

25号編集委員

この情報誌で若い世代を含めたい
いろいろな世代の方々に少しでも男女共
同参画を考える“きっかけ”になれば
と思います。

弓場てる子・山崎嘉代子・石原春代・
荻野留美子・中村陽子・松田貴子・
細井恵子

企画・編集:さんかく21・安城

発行:安城市

問い合わせ 安城市役所市民生活部市民協働課

〒446-8501愛知県安城市桜町18-23

Tel (0566) 71-2218(ダイヤルイン) Fax (0566) 72-3741